

廻廻 REUNION 01

MISOKA FUMIZUKI

◇ 文月晦日 ◇

Circle rukiruki-EXISS Presents



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



いつからだろっ

こうやって...
好きでもない男達と
身体を重ねる様
になったのは



断ち切る機会は
幾度もあったはずだけど

私はそれをしなかった



『依存』？

キーン

ムニッ

カズ、

モッ

ズッ

ズッ

確かにそれも
あるかもしれない



…でもそれ以上に
あの人に気付いて
欲しかったから
かもしれない

ほあ

ほあ

ほあ

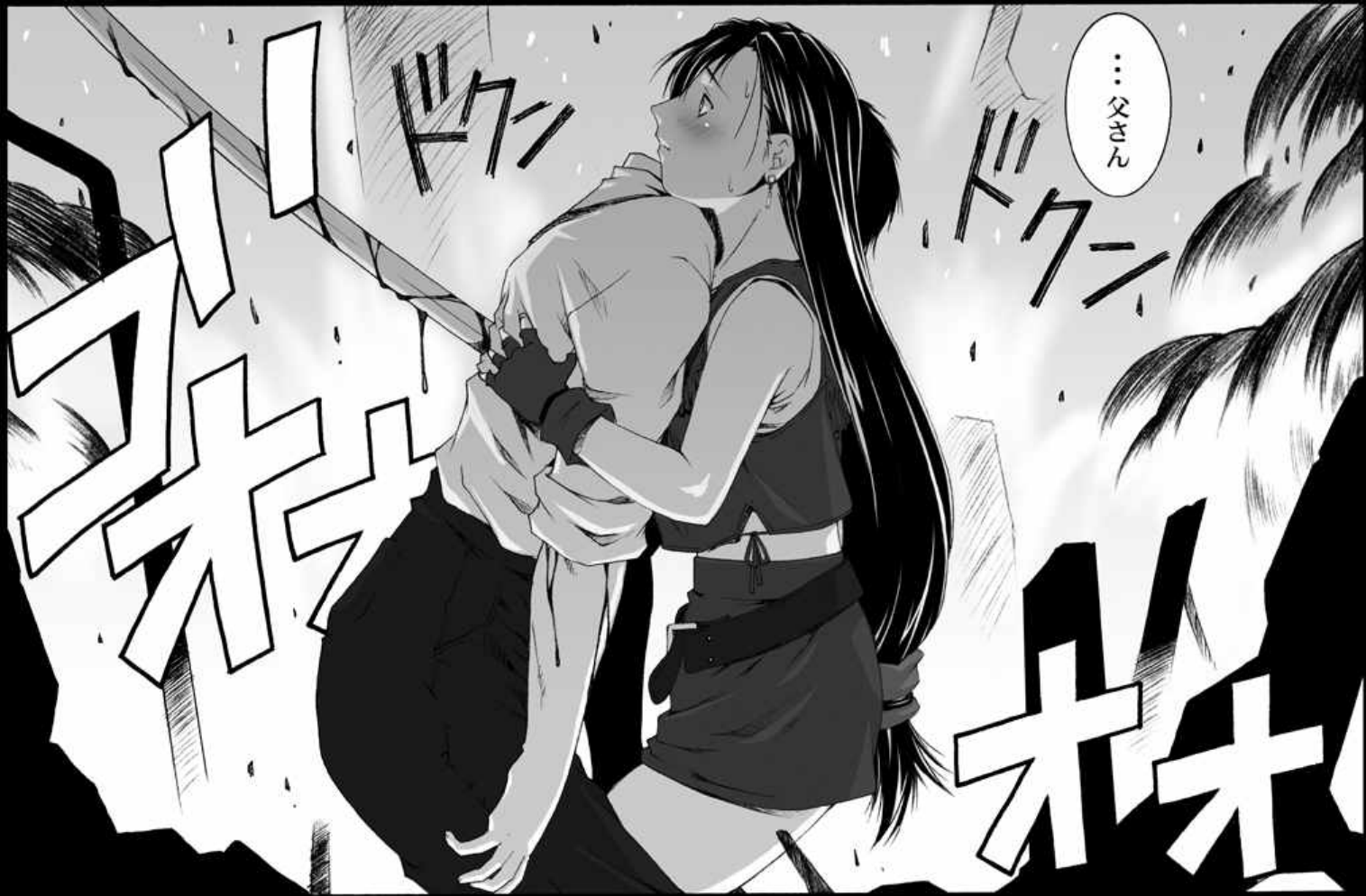
ぼた、

じろっ

あの人に…
止めて欲しかった
ただそれだけ
かもしれない



…さん



…父さん



父さん

さようなら

人には誰にだって忘れたい過去や
変えたい記憶、長い月日で捻じ曲がってしまった思い出の
ひとつやふたつ、あるはずだ。

炎に包まれたニブルヘイム。
セフィロスの暴走。
父親の死。

あの時の私はただ、そうするしか出来なかった。
それが一番だと信じていた。
決して衝動的ではない。

願っていた結末だったの？
その後溢れた涙は具現化された後悔だったの？

父親の亡骸から引き抜いた刀を持つ私の一番の望みは
セフィロスに殺される事だったのかもしれない。

何処にでもある
ごく普通の家庭
普通だけど 毎日が
平和で幸福な日々



辺境の里ニブル Heim で
「ニブル」一番の「幸せ者」が
ログセだった父が 私に
とっての自慢でもあった

母が死ぬまでは



美しく強く お前も
母さんのように生きろと
ログセが変わった日から
次第に父の行動や言動も
変わっていった



ハア

父……さん？

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

—— その夜 父は
親の殻を破り一匹の
ケダモノとして私の
寝室に訪れた

血走る瞳 浮出た血管
そして……以前見た
ソレとは明らかに違う
振り返った父のペニス

父さん？
え？何？

ハア

やつ……
いやああああ
あああああつ！

その時の私は父親の
気に障る事をしたのかと
ひたすら謝るしかなかった

許しっ
あっ

ぐっ

ごめんなさっ
ごえんらさい

あ

あぐっ

みちっ
みちっ

みん

きし

何度泣いて謝っても
父の太い腕は私の衣服を
剥ぎ取る事を止めない
やがて全裸となった私の

『はじめて』が

いぎっ

あ



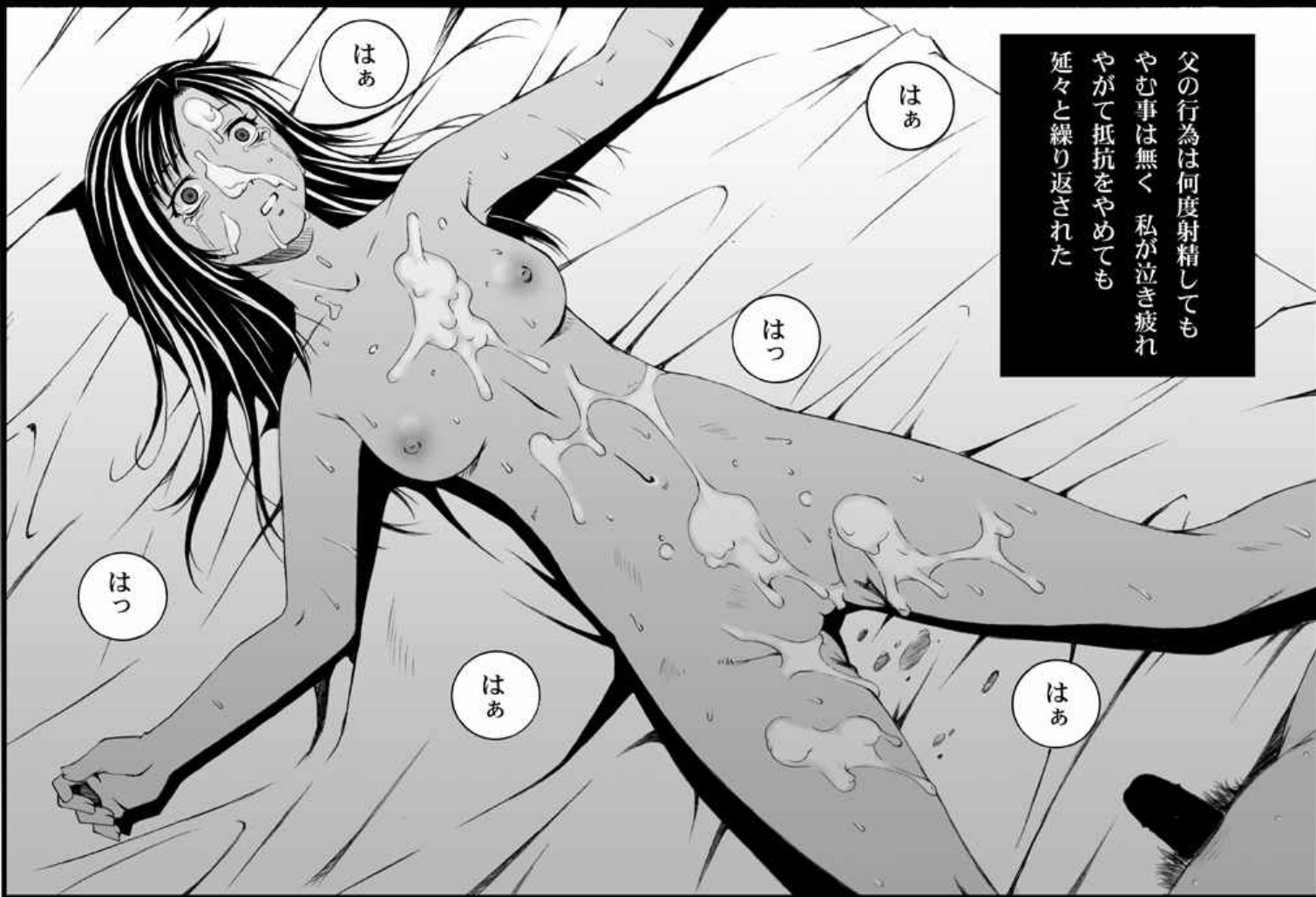
後で知ったのだが
この時 父は神羅から
横流しの『魔薬』を
手に入れていたらしい

気分を高揚させ
淫欲を活性化させる
裏の世界の常備薬
やがて精神を崩壊させ
肉体をも滅ぼす…



痛い
痛い…

い…よ



父の行為は何度射精しても
やむ事は無く 私に泣き疲れ
やがて抵抗をやめても
延々と繰り返された

はあ

はあ

はっ

はっ

はあ

はあ

やがて私は
父に徹底的に
調教された

父親に言われるまま
私は始めて見る中年の
男達の居る部屋に入った

あの……
ティファ……です

いいな ティファ
お前は客の傍で
酒を注いでれば
いいんだ

うん

今日はゆっくりして
いって下さい……ね

そんな辛気臭い顔するな
金が入ったら 後で
美味しいモンでも食いに
行こう

薄暗い部屋の中で酒を交わす
中年の男達は 私の入室を
確認すると ニヤケた顔で
中央のソファへと手招いた

……うん

ガキヤ

男の視線は明らかに私の胸やスカートに集中していた視線を顔と交互させ一層ニヤケる

ぐひっ

ぶわっ

ぐひっ

こりや予想以上じゃねえか

…あの

ちよつとガキっぽい気がしなくもねえけど

今お酒を…お注ぎ…しますね

ガキだろうが要は俺らを満足させてくれる身体ならそれで良いんだろ

あっ

はははっ！もう酒はいらねえよ！
今からはお嬢ちゃんの身体を嗜む時間だ！

ちよつとやめてくださいっ

父を信じていた部分が無い訳では無かったが心の奥底でこうなる事は薄々感じていた

つまり
父は私を商売の
道具としたのだ

しゅんっ

何いまさらゴネてんだ
おめえには高い金
払ってんだよ

はあ

はあ

はっ
外して下さい

ギョ
ギョ

たぶん

はあ

ギョ
ギョ

あん
!! びっ



うんぐつ！
ほぶぼつ！
うぼふう！

なんだこいつ
フェラもまともに
できねえのかよ



まあそう言うなよ
こんな田舎で
これだけ上物の女

マン汁じゃぶれる
だけでも 俺は
幸せだぜ

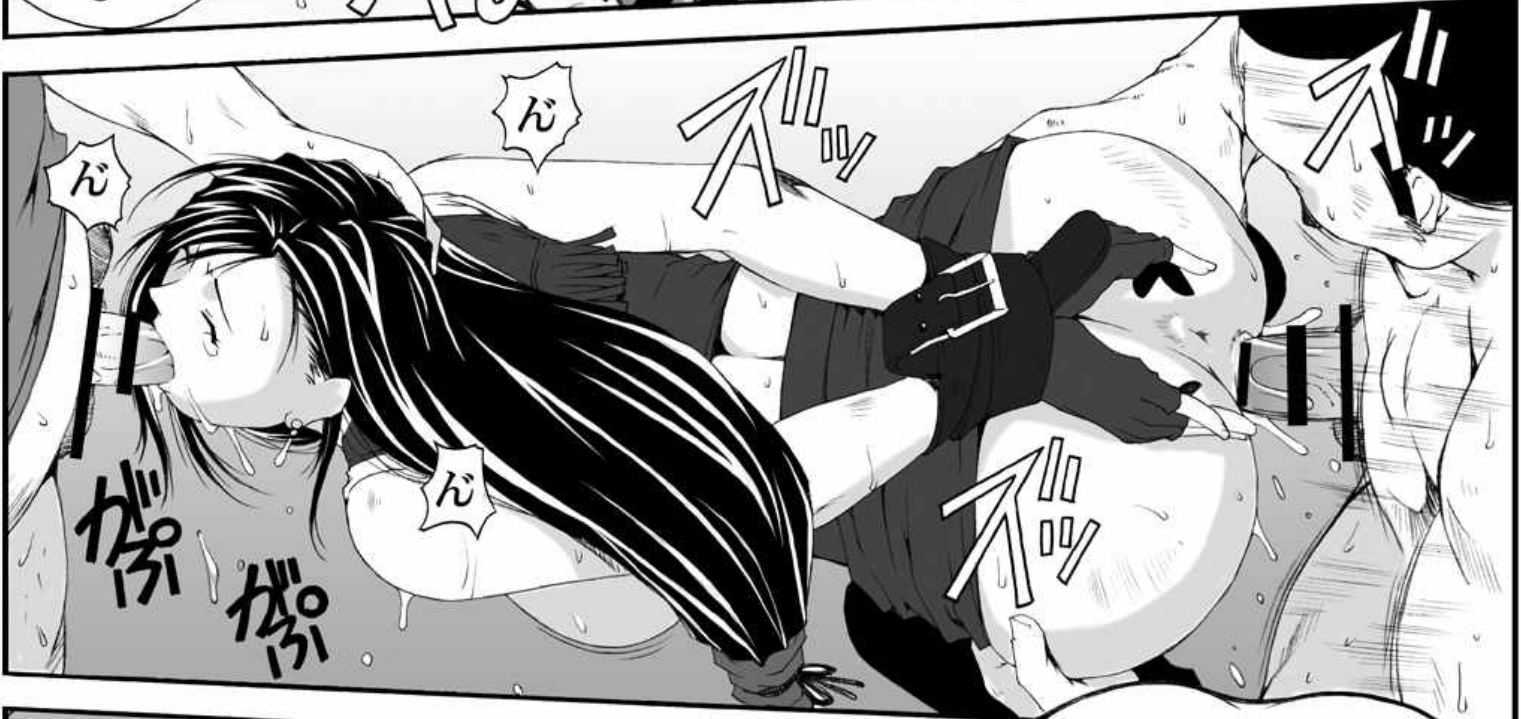


おらあ もっと
咽の奥に龟头が
当たる位
飲み込めよ

萎えっから
歯あだけは
立てんなよ！



それにむしろ素人
っぽい方が 俺と
しては萌えるね





膣内の具合の良いし
こりや思った以上の
名器かもしれんぜ

大物に化ける
ってか？



フェラが気に入らねえ
ならこの柔らかか巨乳で
試してみろよ

抓つちや
...やあ

ひゃあっ

んあ

んおっ こりや
なかなかのパイ圧
じゃねえか
ふひひっ こりや
確かに名器だわ

溜まっていたモン
一気にこそうだ
おらっ 大きく
口開けて構えろ！



びん

!!ひ?

びん

びん





なんだかんだと
文句をつけてた男も
結局その後 3回も
射精していった

また近くまで来た
際には寄らせて貰うわ
次来るのが楽しみだぜ

はっ

はっ

はっ

はっ



自分の部屋に戻ると
父が嬉しそうに
お金の枚数を
数えていた

『仕事』を終えた
私に劳いの言葉は
まったく無かった



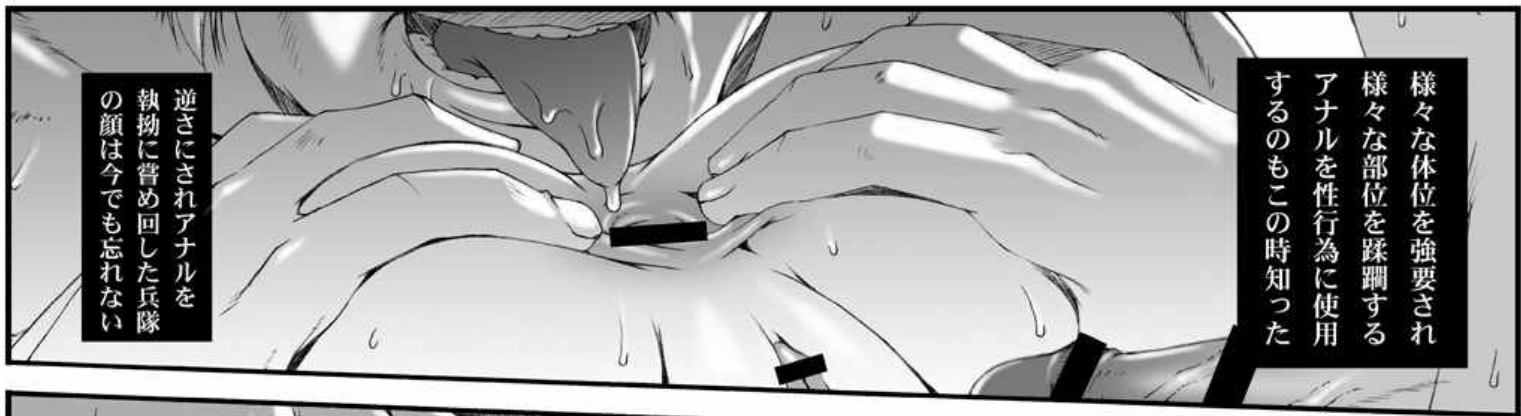
昔の父の笑顔が
戻るかもしれないと
淡い期待を抱いた
だけに

金勘定でニヤける
父の哀れな姿は
最早取り戻せない
時間を気付かさず
落胆した



それでも私には父しか
居なかった…
共に母の死を悲しんだ
私にとって唯一の肉親

その後も 父の
言われるがままに
様々な客の相手を
させられる事になる



様々な体位を強要され
様々な部位を蹂躪する
アナルを性行為に使用
するものこの時知った

逆さにされアナルを
執拗に嘗め回した兵隊
の顔は今でも忘れな



はじめて中出し
されたのも彼らだ

父よりも体格の良い彼らは
薬の影響もあったのか
満足させるのに一般客の
倍の時間を要した



拒否権など無い
ただ痛みしかない行為に
私はひたすら耐えるしか
なかった

給水塔からの帰り道
朱色に染まるニブルヘイムを見る。

様々な思い出が炎と灰で包まれていく。

呆然と見つめる先で見知った老人がうつ伏せに倒れていた。
絶命した老人の背には刀が突き立てられおり
その長さからセフィロスの物である事は明白だった。

刀を引き抜き老人に手を合わせた私は父の安否を
確認する為に自宅へと向かう。

そこには大きな鞆に恐らくは大量に納まっているであろう
札束を抱えた父の姿があった。

不安に怯えるその姿には父親としての威厳は無く
ただ自らの命と金を守るのに必死な男は愚かで無様だった。

揺らめく炎の中で
私の心で燻ぶっていた何かの一つの選択の炎が灯った。



ティファア！何処行つて
やがった さっさと
こんな村出るぞ！



金はあるんだ！
今度は大きめの
街へ行つて
やり直す！

…うん



たまたまそこに

刀があつたから？



今までずっとしがみ付い
ていた父への好意は
母との思い出が詰まった
この村を安易に捨てる
言い放つた瞬間
殺意へと変わった



天乃
天乃

私達は追走する神羅兵たちを振り切りミッドガルを後にした。

バレットの提案通り、ふた手に別れて行動する事を選択したクラウドは
何故かバレットとレッド XIII をお供に任命する。

エアリスと私の二人きりの旅の始まり。

女同士、気楽ではある。

・・・クラウドなりに気を使ったのだろうか？

北東の街カームへ向かう際、薄暗い森へと足を踏み入れる。

若い女がたった二人で旅するルートでは無かった。

街道を選ばず最短ルートを目指した結果、森で休息を取っていた
ガラの悪い男達に囲まれてしまう。

その何人かはクラウドと同じような衣装を身にまとっていた。

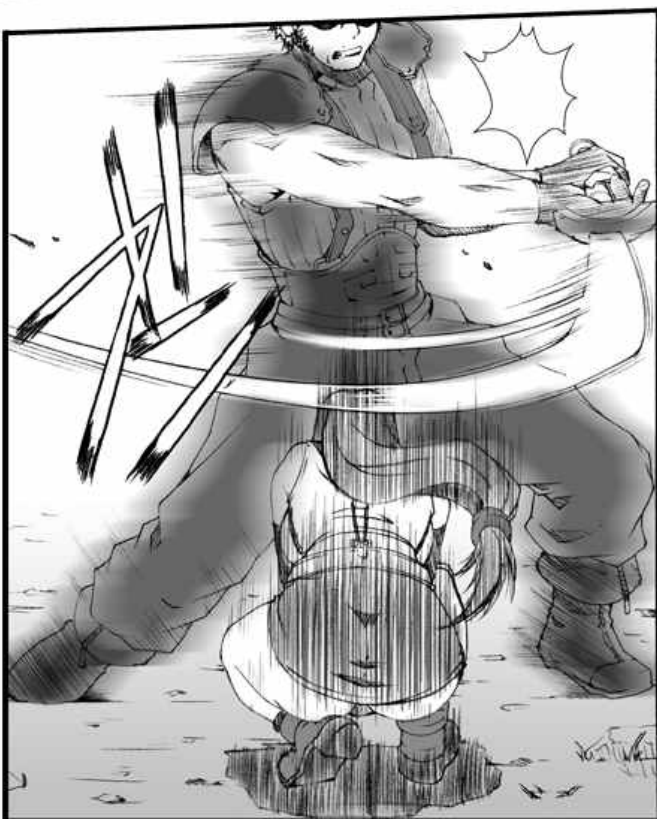
はぐれソルジャーだろうか・・・

私はエアリスに
後方支援を委ね
一番強そうな男に
照準をあわせる

腕に覚えが
あるってか？
やめとけ
嬢ちゃん

抵抗しなきゃ
そっちが好き勝手
やるだけじゃない？

そっちこそ
痛い思いする前に
立ち去った方が
身の為かもよ！

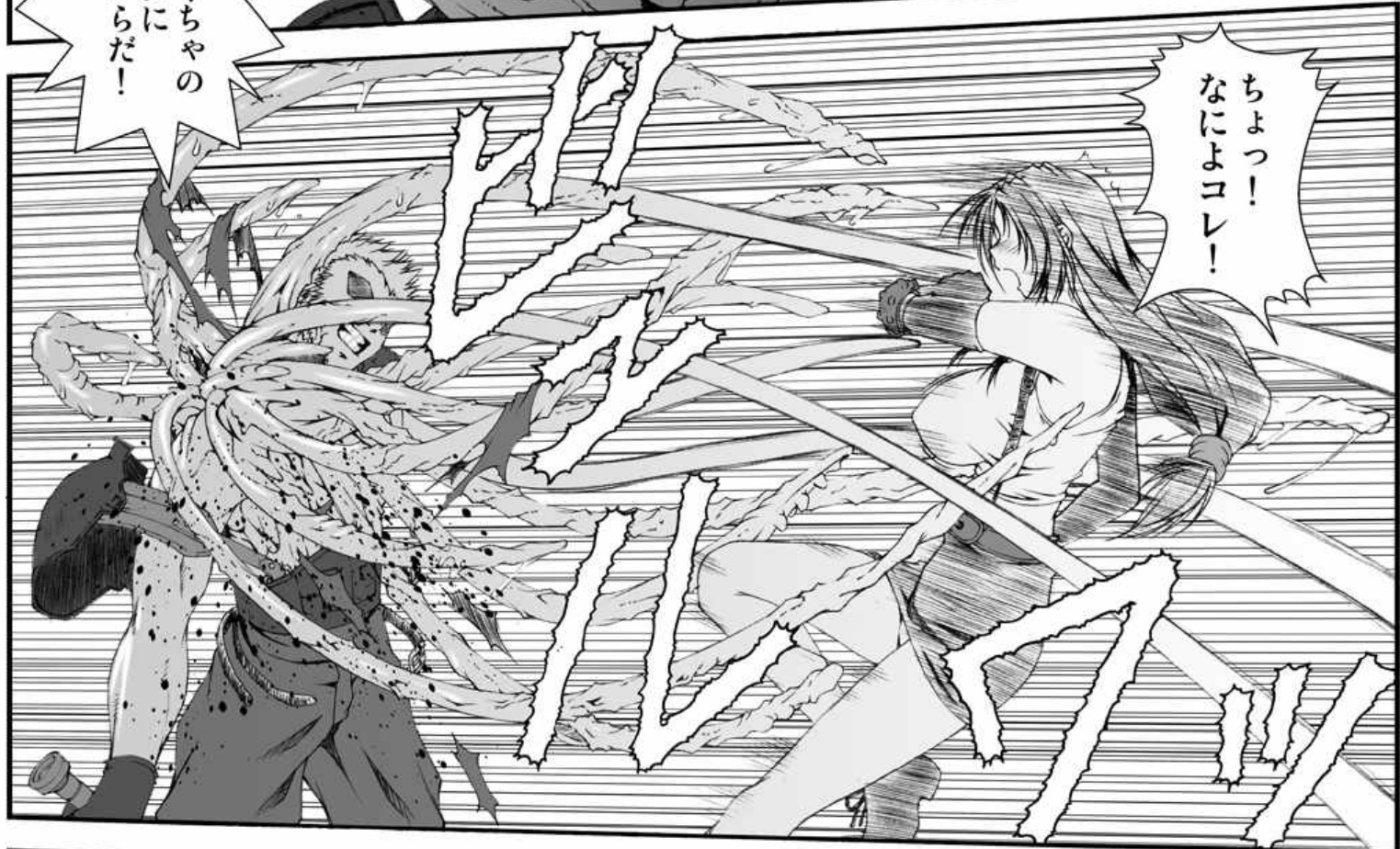




命まで取るつもりは
無かったんだけど…
ソルジャーの衣装は
眉唾だったか

知らねーぜ
アニキの本性見た
奴はみんな食われ
ちまうからな

とりあえず
ご愁傷様







エアリスの悲鳴を
聞くより早く
私は不意の一撃で
気絶してしまった

目を覚ました時には
既に体臭のキツイ
男が私の胸の上で
馬乗りになり必死に
腰を動かしていた



力が…入らない
男達に何かしらの
薬でも投与されたの
だろうか…

ほひっ
たまんねえな

こんだけの乳
なかなかお目に
掛かれんぜ

…おっ！
目え覚ました
みたいですね

バイズリに勤しむ
男のせいですぐには
確認できなかったが
恐らく輪姦された
後だろう…

なに…？

んっ…



…こんな
弱そうな男にすら
歯向かえないなんて

うう…

ほっ

ほっ

ほっ



結局こうなっちゃうのか...私クラウドと再会して少しは嫌な過去も断ち切れると思っていたのに...



エア...リ...?
いやあああ
ああああ!



そーいやあつちの女...泣き叫ばなくなつたな...食われちまつたか?



そーだ...エアリスは

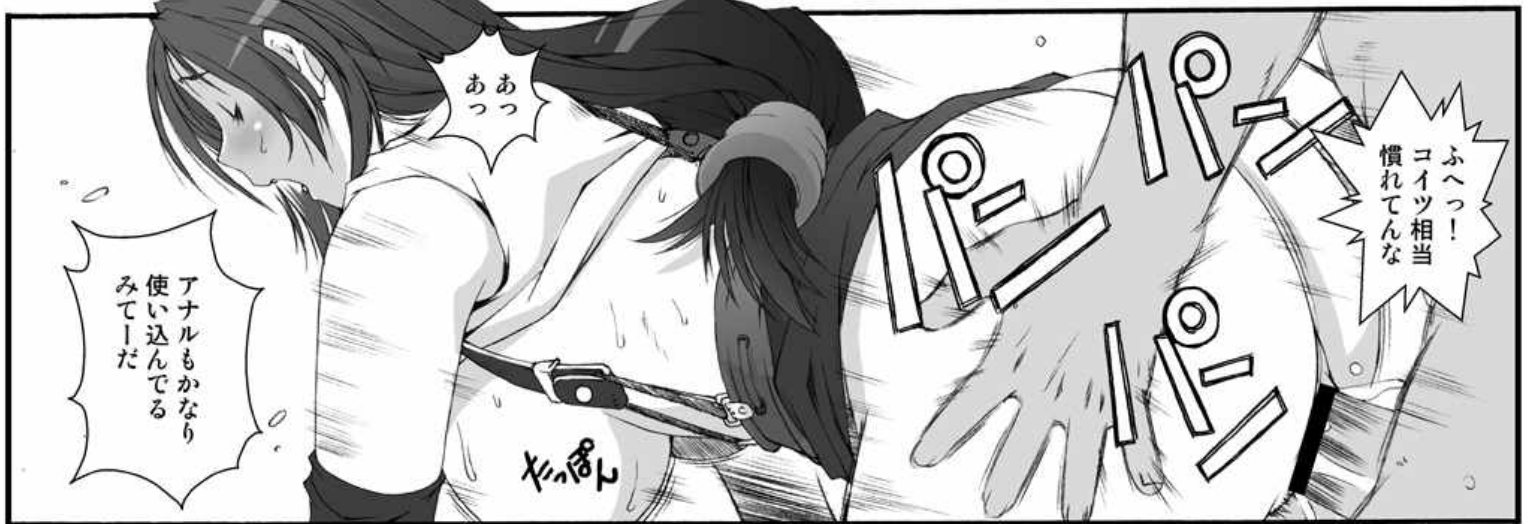
...女?





なんだコイツ
急に喚きやが
って







まあいいだろう
この古代種の娘を
食うのは危険
だからな

それにおめーの
犯し甲斐のある乳
も楽しみだ



言うからには
満足させてくれよ

膣に！肛門に！
尿道に！乳腺に！
全部に突っ込んで
やるからなあ！



アニキイ
こっちの女
犯っちゃってて
も良いっすよ
ねえ？







さあ今度は
何処が良い
鼻か? 目か?

うわあ

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ふん

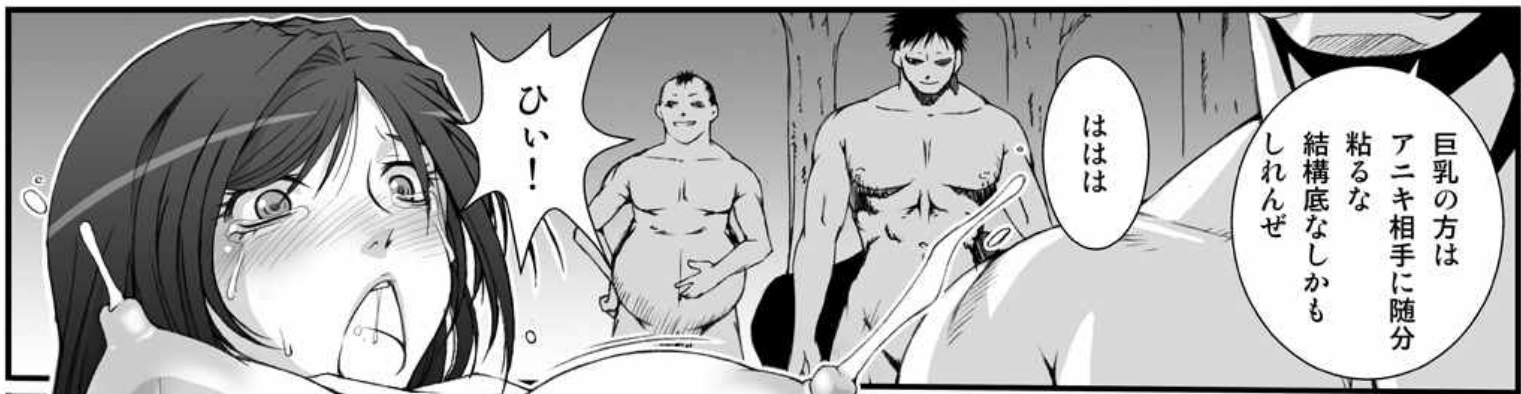
んほ

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん





やめっ

あーあーあー

アツツツ

びん

びん

あーあーあー

ドク

ドク

ドク





巨大なイチモツが内臓を突き上げると同時に
私は再び意識を失った。

薄れゆく意識の中、走馬灯を垣間見た気がするが
恐らくその殆どが男達に甦られた記憶でしかないだろう。

もう二度と目を覚ます事は無いと思われたが
聞き覚えのある声で意識を取り戻す。

クラウドだった。

力が入らない身体で目だけを必死に動かすと
私やエアリスを犯していた男達の骸が横たわっているのを見る。
中でもあの化け物は執拗にトドメを挿されたのか
原形を留めない無残な肉片でしかなかった。



携帯電話が繋がらない事で心配になったクラウドは先着したカームからわざわざ引き返したらしい



見上げたその表情は最近では見せることの無かった今にも泣きそうな顔だった
…でも逆にその表情が私を安心させた



…また助けに来てくれたね
…ありがとう

でもネ…
いつも来るの
— 遅いよ



不展途上。

マリン、
ちよつと変わりに
出てくれない？

ルルルルッ

むっ

：：そっか
出かけてるん
だっけ

ルルル

スッ

はいはい
今出ますよ

ルルル

はい
ストライクマリパリ
S・Dサービス
当社は何でも屋です
ご用件は？

忙し...

おうおめえ
ティファか？

1年ぶりだな
元気だった
か？


キッ

アバランチの連中は
全員死にしまったって
聞いてたもんでよ

ビ
クッ

って言うか
バレットだよな？
今とつても...

かキッ



早速なんだがよ
お前らアバランチに融資してた
2千万ギルとその利息分……
今となっちゃ利息の方が金額が
でけえんだけどな？

くくっ……
まあどうせスグにや
返せねえだろうが？

んでだ 今まで通りおめえさん
の奉仕次第で利息の何割か帳消し
にしてやっからよ な？
いつもの場所で待ってるから
今すぐ来いっつー話しだ

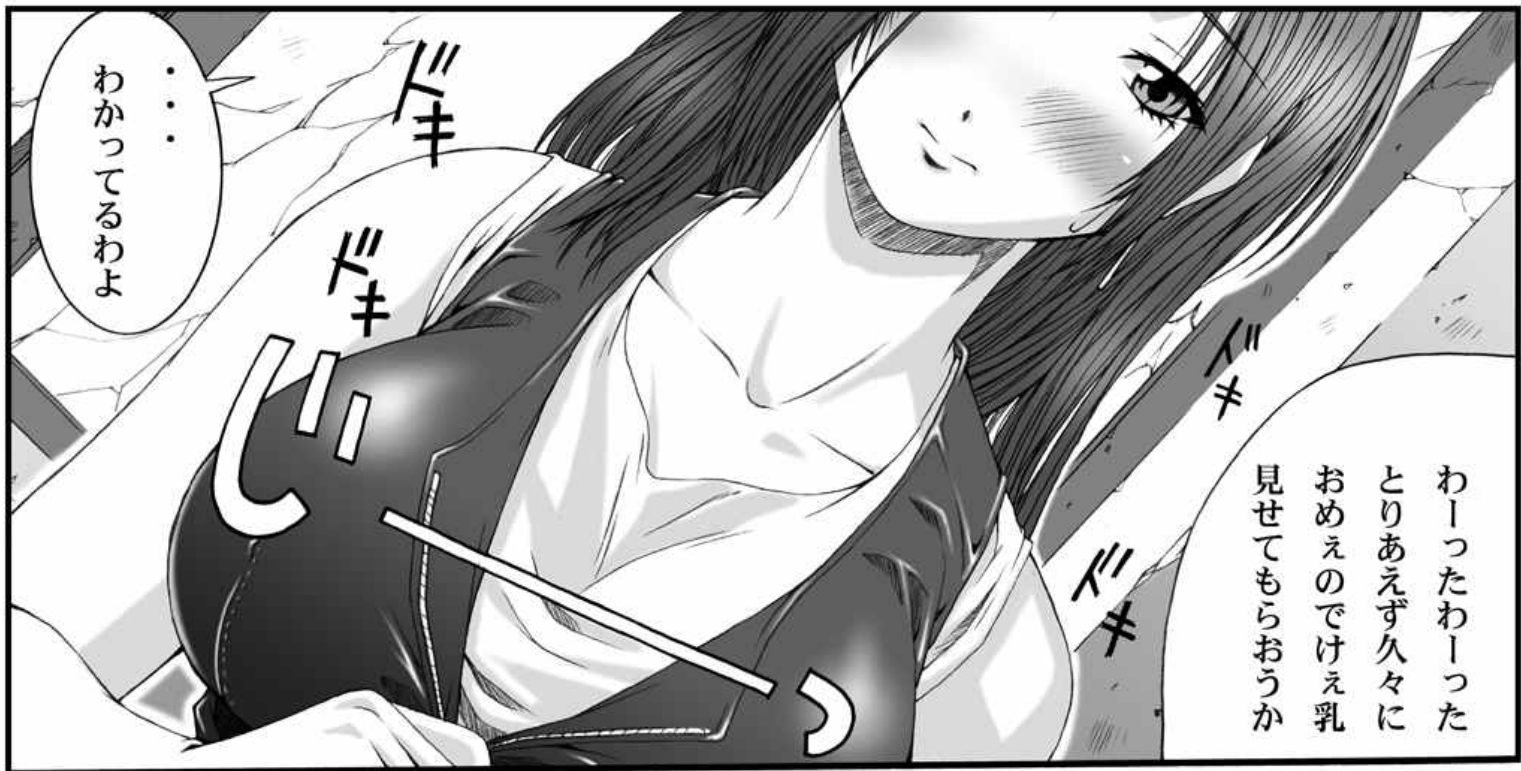
昔話をしに来た
んじゃないの

いよう
ようこそ俺達の
『約束の地』へ

おめえもココに来んの
1年ぶりだろ？
昔はココで随分色々
楽しませてもらったから
なあ

……くっつ
ミニスカートは
やめたのか？あ？

お店とか子供達の夕食の
支度とか色々忙しいんだから
さっさと済ますわよ



羨ましいねえ
クラウドちゃんは
毎日この乳モミモミ
出来んだからよお

ホラ！次は
何したらいいの？
オナニー？フェラ？

クラウドとは
アタの十分の一も
寝てないっての

…人の話
聞けっての

する

よお新入り
最初選ばせて
やんよ

え！
まじっすか

ギッ

へへっ
すげえ光栄っす

んじゃあ…
俺この子のオシッコする
ところが観たいっす

ちよっ

んんん

そこのきったねえ
便所でやってもらいま
しょうよ

放尿！ 放尿！

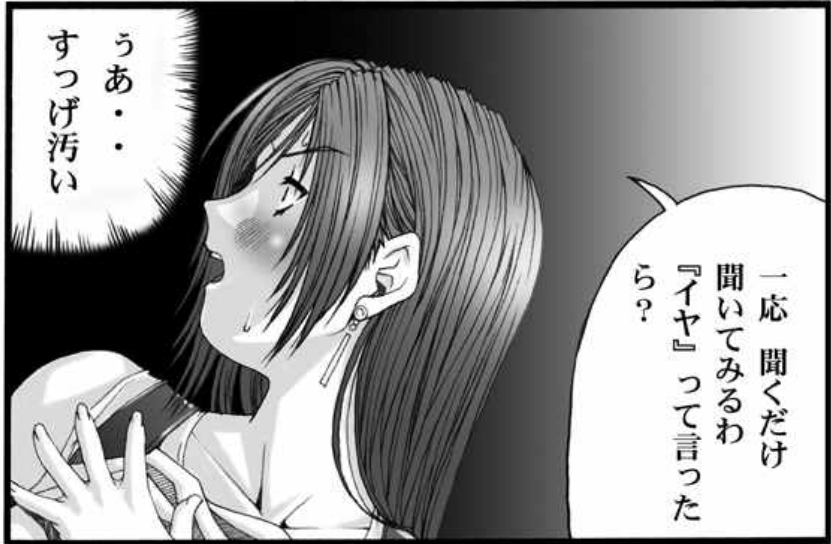


つつー事らしいぜ？
俺のかわいい弟分の
かわいい注文だ
その便所でしょんべん
すりゃ良いだけだ



そりや前に放尿よか
もつと恥ずかしい事
やつてるもんなあ？
なあ？ティファよ

・・・拒否したらしたで
借金の請求迫るだけだし



うあ・・・
すつげ汚い

一応聞くだけ
聞いてみるわ
『イヤ』って言った
ら？



・・・よね

ん？

だあめ



スルッ

うは あの子
随分素直つスね
やる気つスよ

もうちよつと
抵抗すると
思ったのになあ

…こんな時に
限ってスグ…

わあ…

うっは！出た出た！
可愛い顔して本当に
やっちやってるっス
よあの子！

ドゥ

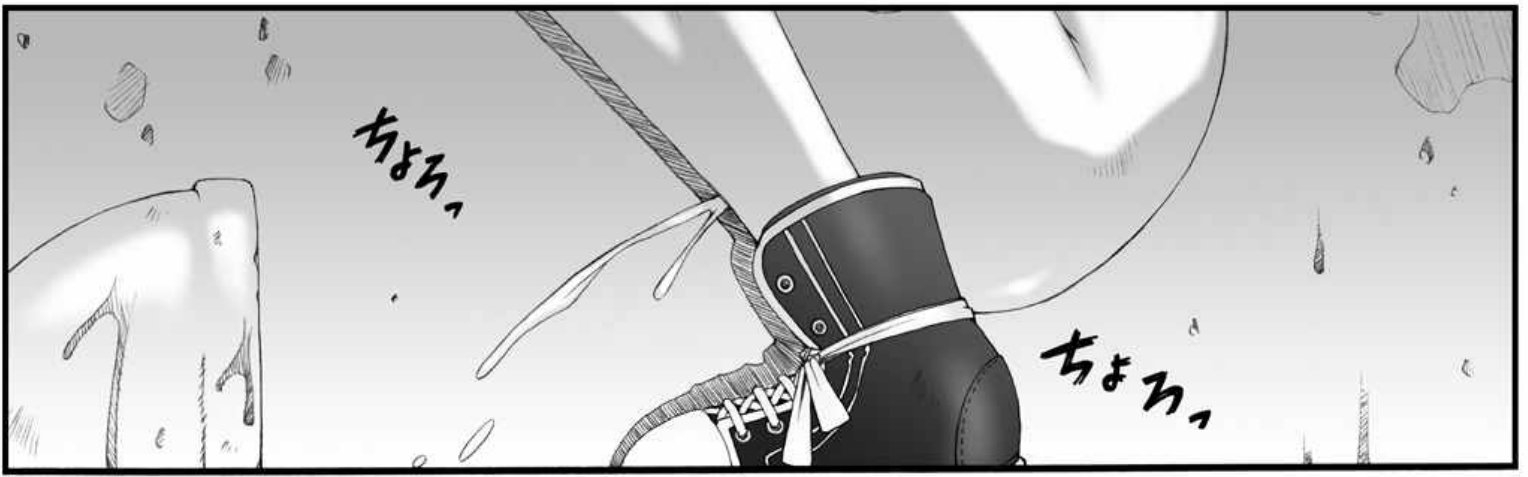
ドゥ

ちよろっ

ちよろっ

オラツ さつさと
シヨンベン
だしちまえよ！

くわっ



聞いたと思うけど
あんたらの借金の額
マジ半端ねえんだわ



あもちろん
俺も色々と気持ち良く
してもらおうっスよ？



パイズリも
慣れたもんだな

初め頃は上手く
挟めなくて毎回
イライラしてたっけな



へえ
そうだったんスカ

俺はやってもらう
よか『犯る』方が
好きっスね



くくっ
おめえの性癖も
随分と
偏ってやがんな

ごほっ

ごほっ

ごほっ

そおかなあ？
ダチとかみんな
こんな感じっすよ？



ガッ

うえぐっ
ごっ！
ごほっ！

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ



ふあ

きゃっ

さてそろそろ

シヨンベン臭えマ●コ
掻き回してやっか！

ゴッ

ゴッ





フン だんだん
昔の『顔』に
なってきたやがった



いひい!
そんなに音…
たてちやイヤあ!

おまんこコレ以上
虐めないでえ

舌で
かき回さ
ないでえ



ちよつと弄れば
元の鞘に納まるのさ



声もさつきよか
エロくなってる
っスね

一度『調教』した
メスはどうな
猫かぶってたって

やべこのエロい
身体と声聞いてたら
マジ我慢出来なく
なってきた

んっ!

キ
ニ
ン

ぺちよ

じゅるっ

ぐんっ

ムッ

カッ

ズ

ズ

うへっ
エロい尻してやがんな
今ブツ挿してやつから
ケツ上げな

ポア ポア

びん

びん





へへっ
一ヶ月ぶりの射精だ
こぼさねえで
全部飲み干せよ！



俺もそろそろ
やばい...かも

どんどん
締め付けが
キツくなってる



んぐはあ
ああああ



うぐっ
うぐっ



言葉や態度とは裏腹に私の快楽に対する欲求は

膣内は兎貴に任せて俺はアナルにしとくッス

そっちは



返す宛など無い多額の借金を少しでも軽く...

ひぎい



おおおおぎゅんぎゅん締め付けるう

アナルは...だ...めえ

...今だに過去の傷を引きずるクラウドや宛も無く石油を掘ると出かけたパレットに

ひや...あめえ...だ...ひやめえ...



この借金取りの男達の数分の前戯によって1年前のあの時に戻ってしまったいた

いぎつ
つつつ
ひぐう!

駄駄駄駄駄駄
目目目目目目
駄駄駄駄駄駄
目目目目目目
え駄駄駄駄駄
目目目目目目

うちやうちや
う産まれ
ううううう

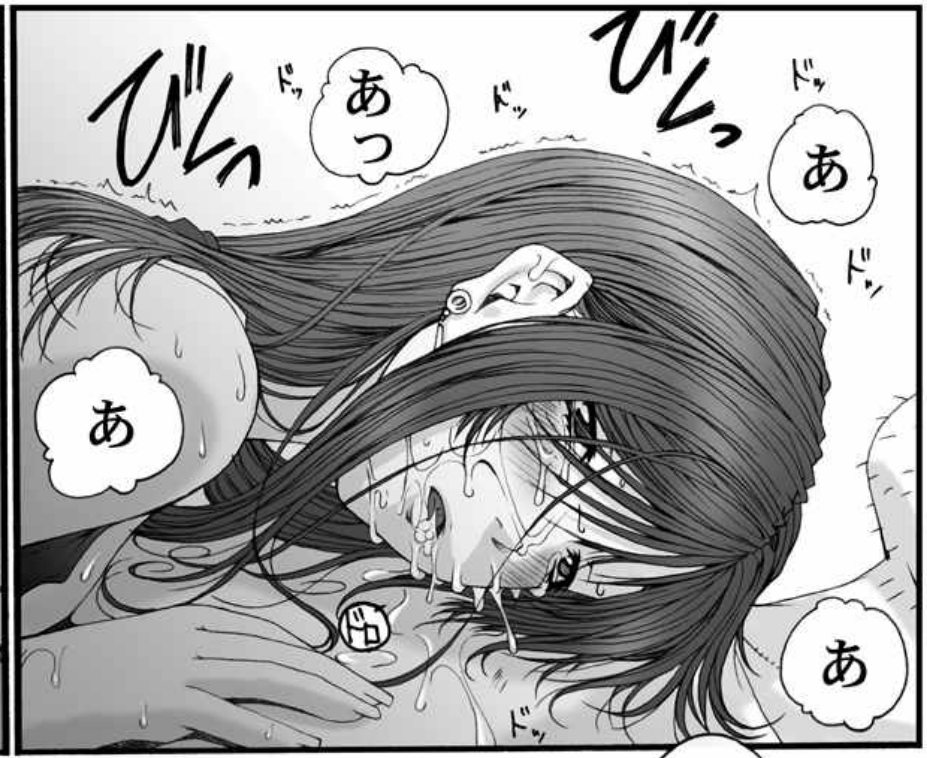
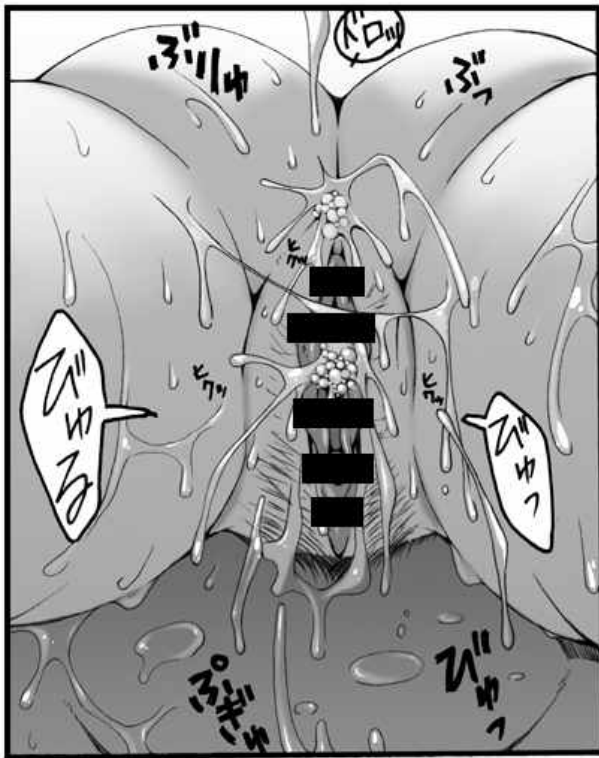
でる
でちやうち

んんあああ
ぐうううう

ひあっ！
壁内とアナルで
擦れてるうう

イイイイイイ
イイイイイイ
イイイイイイ
イイイイイイ
イイイイイイ
イイイイイイ
イイイイイイ
イイイイイイ
イイイイイイ
イイイイイイ

すい
すいよう



ティファちゃん
センスあるから

あ
あ
あ

あ
気持ちよかった



：数日後
私はあの男の紹介で
再びあの店に訪れる事に
なった
そう……
『蜜蜂の館』である



もっと
稼ぎたいなら

良い店紹介
すつから
連絡頂戴よ



← || to be continued



NEXT

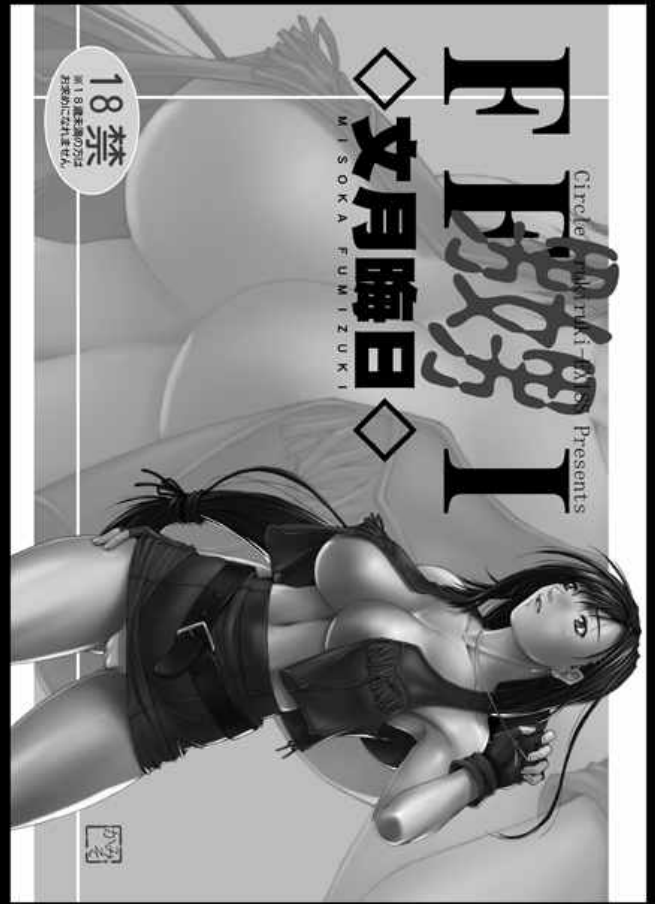
FF 鷓 reunion 02

ティファのおまんこにむしやぶり付く

ひあう

お客さまっ

ぢぢやう



FF 文月晦日 reunion 01

発行 / るきるきEXISS

著者 / 文月晦日

発刊日 / 2010/08/15

印刷所 / 有限会社トム出版

※無断転載、複製、データ化の禁止

※18歳未満の購入、閲覧禁止

<http://misoka.net>

mail: popjam99@hotmail.com

